

くまもとアートポリス・プロジェクト・マップ

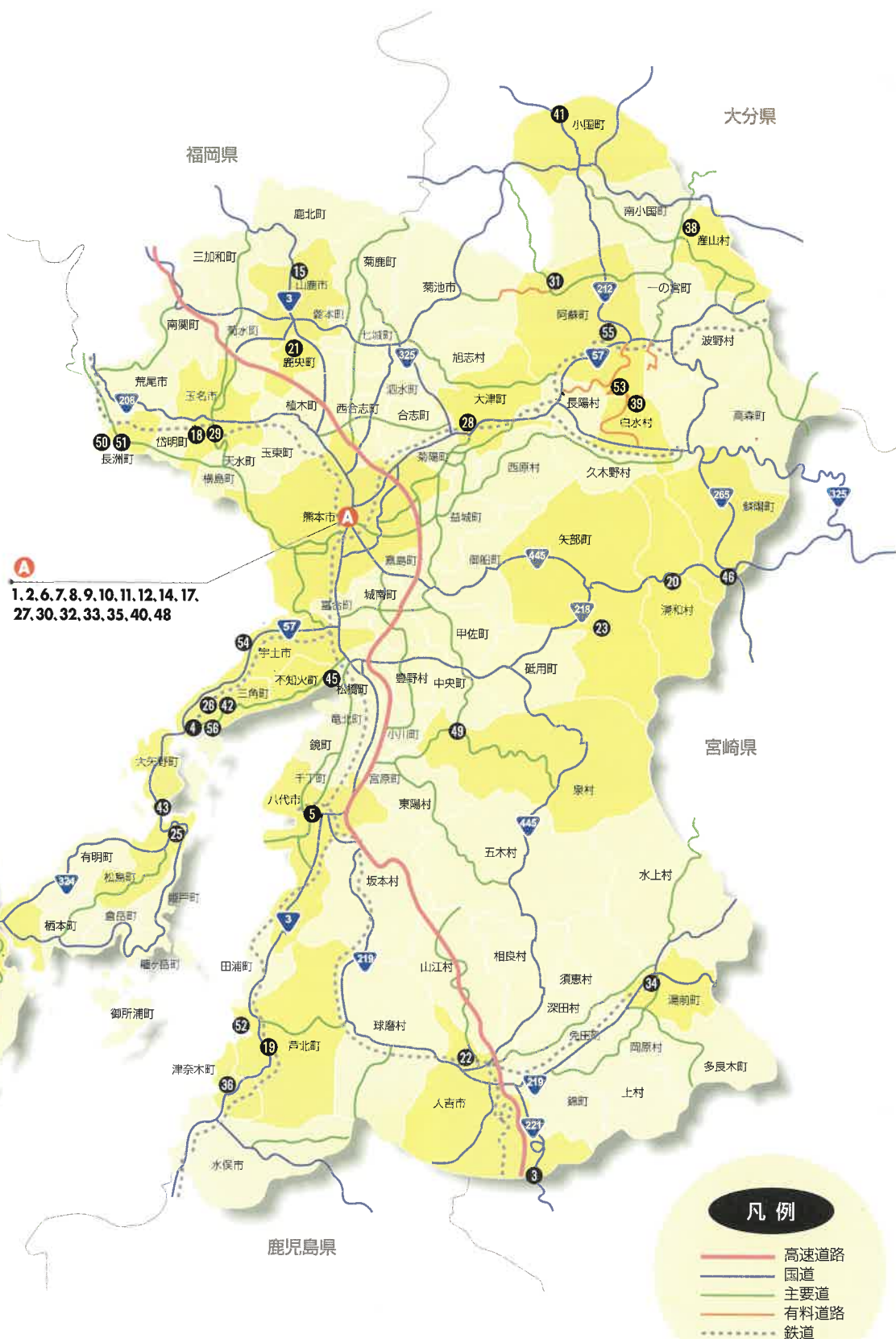
Kumamoto Artpolis News

19

くまもとアートポリスニュース第19号
1997年10月発行

熊本県内各地に建設・計画された
くまもとアートポリスの建造物。
現在56のプロジェクトが竣工・進行中。
各地のまちづくりや文化交流の拠点になっています。

- 1 熊本北警察署
- 2 東宮保田第一団地
- 3 加久藤トンネル換気所
- 4 三角港フェリーターミナル
- 5 八代市立博物館・未来の森ミュージアム
- 6 熊本市花畑パークトイレ
- 7 熊本市上江津湖畔トイレ
- 8 熊本市宮新地団地A
- 9 熊本市宮新地団地B
- 10 熊本市宮新地団地C
- 11 熊本市宮新地団地D
- 12 熊本市宮新地団地E
- 13 県道橋景観整備(基礎調査)
- 14 熊本市宮託麻団地
- 15 光のまちづくり(まちづくり構想)
- 16 牛深ハイヤ大橋
- 17 東宮帯山A団地(公開コンペ)
- 18 玉名市文化施設構想
- 19 瀬の香橋
- 20 清和文楽館
- 21 県立装飾古墳館
- 22 球磨工業高校伝統建築実習棟
- 23 船の瀬大橋(工事中)
- 24 公園ファニチャーデザイン、同整備マニュアル(構想)
- 25 松島町合津終末処理場管理棟
- 26 石打ダム管理所
- 27 県営新渡瀬団地
- 28 大津町第二庁舎・県民交流施設(構想)
- 29 玉名天望館
- 30 大甲橋景観整備(構想)
- 31 草地畜産研究所畜舎
- 32 再春館レディースレジデンス
- 33 県立美術館分館
- 34 瀬前まんが美術館・公民館
- 35 県営竜蛇平団地
- 36 つなぎ物産ギャラリー
- 37 教会の見えるチャペルの鐘屋公園
- 38 花の温泉館
- 39 TOTO AQUAPIT ASO(阿蘇山上公共トイレ)
- 40 白川橋景観整備
- 41 杖立橋+Pホール
- 42 石打ダム資料館
- 43 天草ビジターセンター・天草展望休憩所
- 44 うしぶか海彩館
- 45 不知火町文化プラザ(設計中)
- 46 馬見原橋
- 47 天草工業高校実習棟(工事中)
- 48 熊本北警察署坪井交番
- 49 ふれあいセンターいすみ
- 50 有明フェリー長洲港ターミナル
- 51 鹿屋警察署長洲交番
- 52 県立戸北青少年の家(工事中)
- 53 草千里公衆トイレ(設計中)
- 54 宇土マリーナクラブハウス(工事中)
- 55 阿蘇町農村公園アートプロジェクト(設計中)
- 56 漁業取締事務所(工事中)



アートポリス新規プロジェクト紹介
◆牛深ハイヤ大橋 ◆うしぶか海彩館 ◆ふれあいセンターいすみ

くまもとアートポリス参加建築家に聞く
◆岡部憲明氏 ◆内藤廣氏

アートポリスのある風景 — 牛深市

kumamoto artpolis

4月20日、牛深ハイヤ祭りの際に「牛深ハイヤ大橋」と「うしぶか海彩館」を撮影

ARTPOLIS NEW PROJECT INTRODUCTION

◆アートポリス新規プロジェクト紹介



牛深ハイヤ大橋

USHIBUKA HAIYA BRIDGE

◎設計者 レンゾ・ピアノ+ピーター・ライス+岡部憲明+マエダ

◎所在地 牛深市

DATA

- 主な用途 臨港連絡橋
- 事業主体 熊本県
- 橋長 883m
- 幅員 13.6m
- 構造 下部工 中空壁式コンクリート
上部工 7径間連続鋼床版曲線箱桁
- 工事期間 1991年11月~1997年8月



「牛深ハイヤ大橋」は、江戸時代からカツオ漁の基地として栄えてきた牛深漁港と、水産加工設備の整った後浜新漁港を結ぶ連絡橋として建設された。設計の中心は、美しい天草の風景をそこなわずに、橋をいかに自然の中に溶け込ませるかであった。そこで吊り橋や斜張橋を避け、選ばれたのが最も単純な連続桁梁だった。橋上から風景を楽しむことができるように、高低分離された歩車道をもつ。5mの高さのある橋桁は、強風から歩行者を守る風除板と底面の曲線によって3分割され、光と影のリズムの形象となっている。厚みを感じさせない繊細で表情豊かな一本の優美な曲線として海上19mの空を横切る。



レンゾ・ピアノ

1937年 イタリア・ジェノバ生まれ
1964年 ミラノ工科大学建築学部卒業
1974年 フランコ・アルビーノ、ルイス・カーンに師事
1971~77年 リチャード・ロジャースと協働
1977~81年 ピーター・ライスと協働
1981年 ビルディング・ワークショップ (RPBW) 設立

●主な作品

ボンビドゥー・センター、メニル・コレクション美術館、関西国際空港旅客ターミナルビル、IBM移動パビリオン、パリ・フットボールスタジアム

●受賞歴

レジオンド・ヌール勲章、RIBAゴールドメダル賞、稲盛財団京都賞、高松宮殿下記念世界文化賞、日本建築学会作品賞



ピーター・ライス 構造エンジニア

1935年 アイルランド・ダブリン生まれ
1956年 クイーンズ大学卒業、オーブ・アラップ&パートナーズ入所
1960年 シドニー・オペラハウス担当
1973年 ボンビドゥー・センター担当
1978年 RFR (RJI) 設立
1992年 ロンドンにて没

●主な作品

ボンビドゥー・センター、メニル・コレクション美術館、関西国際空港旅客ターミナルビル、IBM移動パビリオン

●受賞歴

RIBAゴールドメダル賞



岡部憲明 (おかべのりあき)

1947年 静岡県生まれ
1974年 ボンビドゥー・センター、IRCAM 設計・建設に従事
1981~89年 RPBW (RJI) のチーフアーキテクト
1988年 関空ターミナル国際コンペ優勝、RPBWJ 設立
1994年 岡部憲明アーキテクチャーネットワーク設立

●主な作品

関西国際空港旅客ターミナルビル

●受賞歴

日本建築学会作品賞

マエダ

代表取締役社長 伊藤整一
九州支社支社長 高原虎之助

●主な作品

「新桜木吊橋(あやとりの橋)」「第一保津川橋梁」「梅木真公園吊橋」「ふれあい橋」「名取川橋梁」

●受賞歴

1989年 土木学会田中賞
1989年 欧州ブルネル賞
1990年 プレストレストコンクリート技術協会作品賞
1995年 福岡市都市景観賞
1995年 プレストレストコンクリート技術協会賞
1996年 土木学会田中賞





ARTPOLIS NEW PROJECT INTRODUCTION

◆アートポリス新規プロジェクト紹介



うしぶか海彩館

USHIBUKA FISHERMAN'S WHARF

◎設計者 内藤 廣

◎所在地 牛深市

DATA

主な用途 水産観光センター(物品販売展示・レストラン)

事業主体 牛深市

面積 敷地面積 5,761㎡

延面積 4,650㎡

構造 鉄筋コンクリート+PCコンクリート造、鉄骨集成材混成トラス

主な仕上 屋根：着色スレート葺、一部FRP製トップライト

外壁：コンクリート打放し、アクリル系エマルジョン吹き付け塗装

工事期間 1994年12月～1997年3月



牛深港のほぼ中心に位置し、「ハイヤ大橋」が敷地の中央を貫く「うしぶか海彩館」は、橋と人間を繋ぐものと位置づけられている。あかね棟とハイヤ棟、そして既存建物を改修した展示棟の3棟から構成されており、あかね棟とハイヤ棟は橋の両翼に配置されている。大屋根のあかね棟は市場のように開放的に作られ、大きないけすを中心に海産物を販売している。また2階には、かつて牛深で使われていた木造船を復元、展示している。ハイヤ棟はレストランを中心に、総合案内所や展示室、牛深の観光案内所などを持つ。この建物は、来訪者と市民のふれあいの場を提供するとともに、将来、別の機能を求められた時、建て替えが可能であるように考えて設計されている。

内藤 廣 (ないとうひろし)

1950年 神奈川県生まれ
 1974年 早稲田大学理工学部建築学科卒業
 1974～76年 大学院にて吉阪隆正に師事
 1976年 早稲田大学大学院修士課程修了
 1976～78年 フェルナンド・イグエラス建築設計事務所(スペイン、マドリッド)
 1979～81年 菊竹清訓建築設計事務所
 1981年 内藤廣建築設計事務所設立、現在に至る
 1986～88年、89～95年 早稲田大学非常勤講師

●主な作品

ギャラリーTOM、住居No.1 共生住居、住居No.8 稜線の家、オートポリス・アート・ミュージアム、海の博物館、志摩museum、安曇野ちひろ美術館

●受賞歴

1993年 芸術選奨文部大臣新人賞
 1993年 日本建築学会賞
 1993年 吉田五十八賞



ARTPOLIS NEW PROJECT INTRODUCTION

◆アートポリス新規プロジェクト紹介



ふれあいセンターいずみ

IZUMI VILLAGE CENTER

- ◎設計者 武田光史+ロゴス設計同人
- ◎所在地 八代郡泉村

DATA

主な用途	観光案内センター+物産館
事業主体	泉村
面積	敷地面積 8,447㎡ 建築面積 1,991㎡
構造	木造、一部鉄筋コンクリート造
主な仕上	屋根：サビナシルーフ厚0.6パネル屋根工法 外壁：杉縁甲板厚12張りオスモカラー塗布
工事期間	1995年9月～1997年3月

泉村の玄関口に建てられた「ふれあいセンターいずみ」は、山肌を削った石積みの段々畑の空に浮かんで見える。施設は、来訪者のための物産レストラン棟と、村の福利厚生施設となる会議室などの2棟からなる。物産レストラン棟はL字型の平屋建てで、勾配のある屋根と間隔をあげた柱によって開放感をもたせた。一方、会議室棟は木を削りだしたかのような形態の木造2階建てである。大会議室は、市場やコンサートなど多彩なイベントが可能な外の広場と連続する空間を創りだしている。どちらも外壁には村の林業を象徴する杉板が張られている。



武田光史 (たけだこうじ)

1950年 宮崎県生まれ
1973年 東京工業大学卒業
1978年 東京工業大学助手
1985年 インドネシア・カリマンタンに農村開発のため滞在
1986年 武田光史建築デザイン事務所設立
1988年 東京工業大学非常勤講師
1997年 東海大学非常勤講師

●主な作品
七尾の住宅、富岡の住宅、小諸の住宅、青、保土ヶ谷の住宅、善福寺の住宅、ミュージアムパーク・アルファピア

ロゴス設計同人

代表者 丹伊田 稔

●主な作品
「文林堂」「平田機工本部ビル」「熊本バリエ研究所」「清和高原天文台+キャビン」「上通ピアール」

受賞歴

1983年 第18回セントラル硝子国際建築設計競技「彫刻美術館」佳作



平成3年11月から建設が進められていた牛深ハイヤ大橋が平成9年8月7日に完成した。後浜新漁港と在来の国道を結んだ長さ883mの牛深ハイヤ大橋。一本の線のようなシンプルで美しい橋は、青い海をバックに緩やかなカーブを描き、まるで空中に浮いているようだ。この牛深ハイヤ大橋のデザインを担当した岡部憲明氏に話をうかがった。

シリーズ

15

くまもとアートポリス参加建築家に聞く

牛深ハイヤ大橋 岡部憲明氏



はじめは
緩やかなカーブを描く一本の線

'88年に関西国際空港旅客ターミナルビルのコンペのための敷地調査に建築家レンゾ・ピアノ、今は亡き構造エンジニア、ピーター・ライスと共に日本を訪れた時、アートポリスのディレクターをされている八束はじめさんと話をする機会がありました。そこで「アートポリス事業の一環として牛深市に橋を造る計画があり、デザイン上素晴らしいものを造りたいのだがやってみる気はあるか」と打診されたのが最初です。本格的に設計を任せられることになってからは、レンゾ・ピアノやピーター・ライスらと共に牛深に足を運び、どういった橋が牛深の町に似合うのかデザインを練りました。風景を前に、現地訪問の折りの討議の中から、風景の中に浮かぶ一本の線がテーマとして捉えられ、ピアノが緩やかなカーブを描く一本の線のような橋をスケッチしました。それが最も牛深の細やかな町並みを崩さず、自然とも調和するデザインに思われました。また、実際の工事を担当されたマエダのチームと共にプログラムを詰め、平成3年11月、ついに着工となったのです。

自由設計の建築が「小説」なら
枠が決まっている橋は「俳句」

今までにいろいろな建築物を手掛けましたが、橋の建築は今回が初めて。橋は高さや幅など枠が決まっているので、その枠内でいかにデザインをするかで一番苦労しました。例えるなら、形式も何も自由に作れて、しかも後から内容を組み立てていく工夫が許される建築は小説。それに比べて橋は最初からパターンが決まっていて、それでいて個性を出さなくてはならない俳句のようなものです。

デザインのイメージは
「風景のフレームをつける」

青く澄んだ海、緑豊かな山々にのどかな漁村の風景。牛深は自然豊かでとても美しい町です。この美しい風景の中に橋を架けるとなると、まず、どんな物を作っても風景を変えてしまうことになるでしょう。デザインが目につく橋と言えば、吊り橋や斜張橋ですが、大きな支柱がシンボリックとなるため、繊細なイメージの牛深には似合いません。そこで、支柱を建てずに橋桁だけで橋を支える、連続桁梁形式の橋を造ることになりました。穏やかな牛深の自然に調和するのは、静的で単純なイメージの橋。連続桁梁で一本の線のように軽やかに、端正に見せることで風景の中に突然橋を持ってくるのではなく、自然を引き立たせるフレームをつけるイメージでデザインをしました。

5mもある巨大な橋桁も
視覚的効果で軽快な印象に

しかし、連続桁張りで150mのスパンを架橋するには最低5mの桁高が必要になってきます。5mといったら視覚的にかなり重々しいものになってしまいます。この視覚的厚重さをどう取り除くかが問題です。そこでまず、橋の下部を曲面にすることで風の抵抗を減らすと共に、視覚的に軽快な印象を与えることにしました。しかし、繊細なカーブを造ると言ってもこれはかなり高度な技術が必要です。また、歩道面を車道よりも下げ連続するフラップ（風除板・2.5m×2.5m）をつけることで奥行のある側面を作って視覚的に軽さを出しています。5mの桁高はフラップ、桁面、下部面に3つに分割されることでデリケートな表現を獲得することが可能となっています。このフラップは横風からの歩行者の保護にもなっています。さらに歩道の柵には有機的で柔らかな表現のあるアルミの鋳物を使い、歩行者のために親しみやすい環境を作り出しています。

自然の光と運動して
時間、季節と共に多様な表情を見せる橋

この橋は牛深の美しい風景にフレームをつけるものですから、自然の中に溶け込んだものでなくてはなりません。以前、どうして橋の下面を緑に塗ったのかと聞かれたことがありますが、この橋に緑はもちろん、カラーは一色も使われていません。使われているのは何パターンかのグレーのグラデーションです。では何故、橋が緑色に見えたのか。それは、水に映った周りの山々の緑を橋桁の下面が映しているからです。実際に橋を見ていただければ分かりますが、この橋は時間や天候によって多少、上向きに向いたフラップが空の色彩を映す鏡となりさまざまな表情を見せてくれます。ある時は太陽の光を浴びて白く輝き、朝日、夕日で黄金色に光ります。日没後は歩道に取り付けられた照明がフラップに反射して歩道面を明るく照らし、フラップ間の隙間から流れ出る光が外にもれ、昼とはネガポジ逆転した姿を演出します。美しい自然の中に架ける橋に余計な色彩はいりません。演出は自然がやってくれるのですから。例えば夜、港に入ってきて最初に現れるこの橋が、月明かりを反射して優しく待っている。それだけで、長い船旅を終えた漁師の皆さんは母港に帰った思いを味わって下さるでしょう。

フェリー乗り場も兼ねる牛深水産観光センターの「うしぶか海彩館」は、現在進められている牛深ウォーターフロント開発の核になる建物で、今年1月に完成、4月に開館した。牛深ハイヤ大橋の建設に伴い、「さかなセンター」として平成元年より建設計画がスタートしたが、内藤氏の提案により、現在の形に。設計だけでなく、プログラムそのものを提案したという内藤廣氏に話をうかがった。

Hiroshi Naito

設計の前にまずプログラムの見直しを

最初、私に話きた時は、4階建ての物産館の建築物、いわゆる箱を設計してほしいという依頼でした。当時流行だった大型の円形水槽を入れたいというような具体的な話もすでに出ていたのですが、プログラムを作り替えていいなら、という条件付きで引き受けました。というのは、まず、すでに進んでいたハイヤ大橋のデザインと不釣り合いだと思ったことが一つ。そして、もう一つは、そういう建物では、牛深を活性化させる建物にならないと考えたからです。その何年か前に、三重県の「海の博物館」を設計していたので、漁業が現在どういう位置にあるのか分かっているつもりでした。磯崎新氏が私を推薦されたということは、建築物という作品を作るのではなく、地域になじみ、そこで利用される建物を造る必要があると考えられ、その役目が私に与えられたのだと受け止めました。

建物のイメージは
活気あふれる牛深の魚市場

ではどういった建物を建てたいのか。そのヒントは、牛深に3度目に訪れた時にありました。朝の5時半に起きて漁港の水揚げを見に行っただけです。すると、そこは活気に満ちあふれていました。昼間の町はガランとして見えるのに、朝の漁港は活気があって楽しい。それなら、この雰囲気、牛深を訪れる人に伝えたいのではないかと、思ったわけです。そこからプログラムを練り直し、「魚の町・牛深」を感じてもらえるよう考えました。建物のイメージは、活気のある市場。最初の予定より敷地面積も広げてもらい、箱を造る

地域性を見つめて
未来につながるものを



シリーズ

16

くまもとアートポリス参加建築家に聞く

うしぶか海彩館 内藤 廣氏

のではなく、大屋根の下、閉じてしまわない開放的で誰でも自由に出入りできる自由な空間を作ろうと考えました。そして、1階の中央に生け簀をおき、希少価値のある魚ではなく、地元で捕れる魚を放すことを提案しました。建築は未来永劫のものではないので、将来、利用用途が変化した時のことも考え、仕切りのない、逆に言うと、必要な時は仕切りで自由に区切ることができるような作り方にしました。

頭上の牛深ハイヤ大橋と
バランスのとれたデザインを

今回、デザインを考える時、うしぶか海彩館の真上を走る牛深ハイヤ大橋のデザインを抜きにしては考えられませんでした。主役は橋なので、橋から見て邪魔になるデザインにするわけにはいきません。「空中を飛んでいる橋をどうやったら、地面に結び付けられるか」ということを自分なりに考えました。実際、牛深ハイヤ大橋の設計者であるピアノ氏の事務所と連絡をとって、自分たちが作った模型を見てもらい、考え方を了解してもらいました。

屋根は耐塩性を考えてスレートに

今回、大屋根にはスレートを使っています。天草から牛深までの道のりにある海沿いの家々の屋根は、2種類のものでしか構成されていません。瓦かスレートです。風や塩害に強いからです。これは、この場所に対する一つの答えが出ている、と考えました。今回の大屋根には瓦だと重すぎるので、スレートを選びました。色は最初はグレーで考えていたのですが、実際に牛深ハイヤ大橋とのバランスを考えた時に、全体が沈んで見えたので、黄色に変更しました。屋根の下の鉄骨は、祝祭的なにぎやかな感じを出すため、赤色に塗っています。建物自体は、木をたくさん使って柔かい感じを出そうということになったのですが、構造は均質な強度を得るため集成材を利用しています。主梁である鉄骨の立体トラスには耐塩性を高めるため、亜鉛メッキを行っています。また、屋根を支える下部の柱と梁にはプレキャストコンクリートを用いています。

理想の形になるのは3年後

来館者には自由に楽しんでもらえたらいいですね。完成後に訪れた時、観光客が、「これまでは、牛深を訪れても時間を過ごせる場所がなかったけれど、やっと、ゆっくり過ごせる場所ができた」と話されているのを聞きました。建物は建築家のもではなく、利用する人のもの。海彩館の支配人にも、のぼりを立てたり、ポスターを貼ったり、もっと自由に使って、どんどん活気を出してほしいと願っています。また、2階の海遊広場には復元されたかつお船などが展示されていますが、網や籠など失われつつある漁業関係の民俗資料を、足の踏み場もないくらい、もっと展示してもらえたら、と思います。建物はすでにオープンしていますが、本当の意味での完成は3年後くらいになると思います。橋の下に公園ができ、植えたばかりの海彩館の周囲の木が大きくなって、緑の中に屋根がちよっとだけ浮かんで見えるーそれが私が描く理想のうしぶか海彩館のイメージです。

牛深市

牛深ハイヤ大橋・うしぶか海彩館 「アートポリスを」

核に観光面を強化」



整備が進む、海彩館周辺のベイエリア

世界的な橋と賑わいの施設が誕生

上島、下島、大矢野島をはじめ、大小120余の島々からなる天草。その天草の最南端に位置するのが、深い入江と丘陵を持つ牛深市だ。熊本市から車で約3時間。穏やかな青い海に、美しい入江。昭和47年にはNHK連続ドラマ「藍より青く」のロケ地に選ばれている。このドラマの脚本を手がけた山田太一氏は、「この港の何が私をとらえたかを、一言で言い表すのは難しい。それは青い海であり、舟群、家並、路地、裏山であり、人々であり、その一日であり、歴史であり、四季であった。私の物語に他の舞台を考えることはできなかった」と語っている。

牛深市は、東に八代海、西南に天草灘の二つの好漁場に恵まれ、深い入江が天然の良港を形成し、江戸時代からカツオ漁の基地として、また南蛮貿易や海運業の中継寄港地として栄えてきた。現在ではアジ、サバなどのまき網漁が、県の総水揚げ量の約8割を占めるなど、熊本県下最大の漁業基地として発展し、近年は養殖漁業にも力を入れている。しかし一方で漁獲量の減少や、魚価の低迷、輸入水産物の増加など厳しい環境が続いている。

そこで、単なる水揚場としてだけでなく、水産加工や冷凍冷蔵保管設備などを備えた、九州西岸域の一大水産物流通加工拠点基地として整備が着々と進んでいる。

その中核となる後浜新漁港から、狭い市街地を通らずに、国道へ直接連絡する産業用道路として今年8月に開通したのが「牛深ハイヤ大橋」だ。イタリアの建築家レンゾ・ピアノ氏設計。全長883m県内最長という肩書きよりも、橋というイメージを一変させたその斬新なデザインに注目したい。

橋の建設と並行して、同じくアートポリス参加による牛深水産観光センター「うしぶか海彩館」が平成9年4月開館した。延床面積4650㎡という大きな空間に、いけす広場や牛深かまぼこ実演、ハイヤ道場やさかな道場、漁業資料館、物産販売、レストランなどを備えた複合施設だ。

「牛深の人と海に惚れたから」

「牛深市は地理的にまちおこしが大変。でも、だからこそやりがいがあると、思うんです」と語るのは、昨年10月、うしぶか海彩館の管理運営を行う第3セクター「株式会社うしぶか」の総支配人に就任した山田大蔵氏。彼は、小国町の

物産館「ゆうステーション」の初代館長として、施設の運営のみならず、先進地として名を馳せるようになった小国町まちづくりの初期の段階に携わり、現在の基礎を築いた人物だ。退任後、まちおこしをテーマとした講演会を全国で開催し、平成8年3月、牛深市に講演で訪れたのを機に、牛深との関わりが始まった。「結局、牛深の人と海に惚れたから」と牛深を新天地に決めた理由を語る彼の言葉には、いくつかの「ぜひうちの村に」という誘いを断り、家族ともども移住してきたほどの、牛深への強い思い入れがあった。

自分たちが今できることをしよう

うしぶか海彩館建設構想は、平成元年にスタート。平成6年に設計が完了し、工事着工と同時に、完成後の運営計画を検討するため「牛深水産観光センター運営計画検討委員会」が、地元の民間人11名により発足した。

委員会を取りまとめた、建設会社を経営する北時正彦氏は「自分たちの思い描くものがベストかどうか分からないが、この施設が50年後、100年後の住民に理解してもらえるように、今自分たちができることをやろう」と思った。建築家は将来的な美意識の変化も、観光客の動向も踏まえた設計を行っているはずだから、施設内容の是非を問うより、いかに活用していくか知恵を絞って、と委員に呼びかけながら進めてきました」と語る。同じ委員で水産加工業を営む山下美智子さんは、「今漁師さんたちは信じられないくらい安い給料で漁に出たり、ときには出稼ぎに行ったりしています。漁業は厳しい状況です。でもこんな時だからこそ、牛深ハイヤ大橋やうしぶか海彩館の完成はいいこと。今後どう利用していくかが大切だと思います」と語る。

「牛深ハイヤ大橋やうしぶか海彩館ができただけでは観光客は集められない。観光客を引きつける魅力的な何かがあって、はじめてこれらの施設も生きてくるものだと思う」という意見もある。市内で観光旅館を営む小野武弘さんだ。自らの旅館で伊勢えび祭りなどのグルメツアーを実施し、観光客の動向を熟知している一人だが、「旅行客は時代と共に団体からグループ、そして個人へと移り変わっているし、ニーズがどんどん多様化している中で、個人単位での対応には限界がある。市全体で考え、力を合わせていくべき」と提案する。

牛深市では、毎年4月の第3土・日曜日に、市民総参加の「牛深ハイヤ祭り」が開催される。ハイヤ節のリズムに合わせて、歌い踊りながら町をねり歩くハ

イヤ道中踊りは、飛び入りで踊りに参加する観客が出るほど盛り上がる。ハイヤとは、南風からきているという。南風のことを九州では八工と呼び、それがハイヤになったらしいが、全国のハイヤ系統民謡の源流と言われている牛深ハイヤ節の、南国らしい楽しく陽気な雰囲気、1日で数万人を集める大きな魅力となっている。今年も、完成間近のハイヤ大橋での道中踊りや、うしぶか海彩館の開館、また全国ハイヤ系統民謡を一堂に会しての「全国ハイヤサミット」が開催されたこともあり、例年の1.5倍、約6万人の観光客を集めた。しかし牛深市のホテル、旅館の宿泊可能人数は約600人。イベント期間中に集中する観光客への対応もさることながら、平時の集客、通年型観光への脱皮が牛深市の大きな課題であり、牛深ハイヤ大橋やうしぶか海彩館がその役割を担う施設として大きな期待が寄せられている。

“漁師の波止場”づくりが進むベイエリア

牛深市中心街を見下ろす標高217mの遠見山の一角には、昔の水源地を利用した回遊式の日本庭園やテニスコート、アスレチック施設などを持つうしぶか公園がある。頂上付近には、世界の水仙19種4万株をはじめ、15万株の日本水仙が植えられ、冬から春にかけての開花時には多くの来訪者の目を楽しませている。また、全国的にも数少なくなった自然海岸、天然白砂の茂草や砂月地区の海水浴場には、多くの若者が毎夏押し寄せている。

昨年12月、牛深市では初めての温泉施設「やすらぎの湯」が完成した。総事業費は約4億7500万円。木造平屋建てで、ペーパーミント蒸し風呂や薬草気泡湯などが楽しめ、農産物の直売コーナーも用意されている。

また、海中公園展望船も半潜水式の新船が今年4月に就航。牛深沖は昭和45年全国初の海中公園に指定されており、全国的に見ても有数のサンゴ群生地であり、テーブルサンゴやハナサンゴ、その中を泳ぎ回るカラフルな魚たちの「海のお花畑」の美しさは定評があった。このたび新しく就航したグラスボートは潜水艦風の風貌に、ピンクのクジラをデザインした奇抜な形であり、展望室が船底に設けられ、窓から真横に海中を見ることが出来るというダイナミックな景観を楽しむことができる。

うしぶか海彩館があるベイエリアは、水産庁のふれあい漁港漁村整備計画により、ボードウォークによる親水護岸や散策遊歩道、統一した街灯、ベンチを



4月より就航し、利用客数も以前の約1.5倍に増えたという潜水タイプの展望船の内部

設置したり、植栽による景観の向上が図られている。これらはフィッシャーマンズワープ（漁師の波止場）構想というコンセプトに基づいて、これまでの産業的な、単なる生産の場としての漁港という概念から、漁村と都市住民とのふれあい、交流を深める場としての漁港への転換を図っていかうというものである。

漁業の町だからこそその魅力づくりを

観光客を引きつけるためには、ハード面の充実だけでなく、ソフト面の提案も大切な鍵になる。海彩館の完成後は月に1回30～50名ほど希望者が集まって、まちづくり座談会が行われるようになった。ときには市外の地域づくり担当者を招いて話を聞いたり、夜を徹し酒を酌み交わしながら議論を交わす夜なべ談義に発展することもしばしばだ。

市秘書企画課の五通敬介氏は、うしぶか海彩館を中心として家族滞在型の観光リゾートを模索している。「大切なのは長期滞在したいメニューをより多く揃えることであり、そのためには漁業の町だからこそできる魅力をひとつでも多く発掘し、紡ぎ上げる必要がある。例えば魚のさばき方教室やハイヤ踊りの体験、水揚げ風景や夕日の見学などがツアーメニューとして確立されるようにしなければ」と語る。

「人の適度な移動時間は2時間程度。これからの牛深の観光を考えるならターゲットは熊本や福岡でなく、長崎や鹿児島に目を向けるべき」と語るのは山田氏。「牛深の魅力は、人、自然、食べ物（の三力）（みりよく）。これまで当然と思われてきた発想をどんどん見直すところから始めたい。まずは、レストランのメニューに、漁師さんたちが船の上で食べるような地元らしい料理を出せないか検討していきたい」と前向きだ。



「今年が観光元年。みんなてまちおこしがしたい」と語るうしぶか海彩館の総支配人山田大蔵氏

2つの建造物は子どもたちの自慢に

まるで大きな竜がゆっくり眠りにつくかのように、次第に照明が暗くなる夜のハイヤ大橋。2m幅の歩道は、夕暮れ時には、夕涼みの散策や、ジョギング愛好者で賑わいを見せている。小学生の未来を語る作文には、きまって登場するようになった。

牛深ハイヤ大橋とうしぶか海彩館。これらビッグプロジェクトの完成を、一過性のものとして終わらせないためには、さまざまな分野の人たちのまちづくり運動への取り組みが欠かせない条件である。

「子どもたちは、自慢できるものが2つできた」と喜んでいる。でもこのことは出発点であり、牛深はこのままではいけない。地に足をつけた議論と着実な行動を積み重ねて子どもたちの期待を裏切らないように、全力を尽くすことが今我々がなすべきことでは」と締めくくった北時氏の言葉が心に残った。



海彩館内にあるおさかな道場では、予約すれば魚をさばいたり、蒲鉾を作ったりという体験ができる



海彩館の2階に展示されている復元された全長12mのかつお船は、牛深漁業の歴史を物語る



平日で1日約300名、土・日で1日約600名の利用があるという牛深温泉やすらぎの湯

推進賞は、社会福祉法人慈愛園ノーマンホームが受賞 ～1996年度の「くまもとアートポリス推進賞」～

推進賞



優れた建造物に贈られる「くまもとアートポリス推進賞」。昨年度は、22点の応募作品の中から、熊本市の社会福祉法人慈愛園ノーマンホームが推進賞に選ばれた。受賞理由は、機能上の要件を、詩的であり、また知的な手法で分析し、優れた技量と創作力でまとめられている点など。推進賞選賞には白水村の阿蘇白水温泉「瑠璃」と横島町のふるさとセンター「Y・BOX」が選ばれた。

透明感のある建物が、園内活動と周辺のコミュニティとを結びつける社会福祉法人慈愛園ノーマンホーム

木造建築の粋を凝らした伝統建築技術をご高覧

高円宮ご夫妻が、清和文楽館をご訪問

今年5月17日から6月1日まで、熊本で行われた男子世界ハンドボール選手権大会。17日の開会式に高円宮ご夫妻が出席され、日本対アイスランドの開幕試合を観戦された。また、その後はアートポリス参加作品である清和文楽館にまで足を運ばれ、木材を生かした伝統建築技術を見学された。



清和文楽館で文楽の人形を手にひととき楽しまれた高円宮ご夫妻

平成10年の竣工に向けて安全祈願

宇土マリーナ安全祈願祭

7月31日、宇土マリーナ安全祈願祭が行われ、建築家の吉松秀樹氏や宇土市長の西田誠氏らが参加、工事の無事を祈願した。くまもとアートポリス参加作品のこのマリーナは、平成11年開催のくまもと未来国体のヨット競技会場にもなる。現在、着々と工事が進められており、平成10年8月に竣工予定。完成に大きな期待が寄せられている。



宇土市長の西田氏も参加し、工事の安全を祈願

12

INFORMATION

13

'97「くまもとアートポリス」見学ツアー

建築家の説明を聞きながら、アートポリスの建築物をバスで見学

9月12日(金)から14日(日)まで2泊3日の日程で、バスを利用した'97「くまもとアートポリス」見学ツアーが行われた。遠くは北海道など日本各地から約60名が参加。大学生から建築事務所員、建築関係の公務員と参加者の年齢や職種はさまざま。一人での参加も多かった。

1日目はまず泉村のふれあいセンターいすみへ。設計者である武田光史氏と丹伊田穂氏も同行し、設計上の工夫やデザインする上で思い入れのある点などの話を聞き、各自、自由に見て回った。普段は登れない屋根の上や梁にも特別に登る許可が出て、細部の構造を詳しく観察する人の姿も多数見られた。

その日の夜は、旅館の広間に全員集まっての会食。うしぶか海彩館の設計者である内藤廣氏も合流し、参加者同士で、また建築家を取り巻いての会話が盛り上がっていた。夕食後も建築家の部屋に集まり、夜中まで建築談義をしたグループも見られた。

2日目は、鹿児島県の蔵之元港へ出て、フェリーで牛深ハイヤ大橋を見ながらうしぶか海彩館へ。内藤氏からうしぶか海彩館の内部でデザインや内部の施工について直接説明を受けた後、さらに質問しながら、一緒に歩いて回る人も多かった。

自分の目で確かめて、実際に建築家に質問しながら、3日間で、県内各地の12のアートポリス関連建造物を見学したこのツアー。「普段は入れないような建築施設の内部も見学できてうれしかった」「会社を休んで来ました。自分の仕事にフィードバックしたい」とそれぞれ感想を胸に帰途に着いた。



写真を撮ったり、話をメモしたり。参加者たちは、最初に訪れたふれあいセンターいすみから、真剣な表情



夕食時には、建築家の話を聞こうと参加者たちが取り囲んだ

現代木造建築のよさを再確認

木造建築とアートポリス講演会開催

9月11日、「木造建築とアートポリスを語る～アートポリスの木造建築と県産材の活用～」と題する講演会が、熊本市の国際交流会館「みゆき」において行われた。

第一部の講演会では、ふれあいセンターいすみの設計者、武田光史氏が、スライドを見せながら、アジアの建築がもつ伸びやかさや、周りの環境に対する思いやり

を説明。ふれあいセンターいすみの竣工まで工夫した点や秘話なども語った。

第2部は、熊本工業大学の村橋久昭教授を進行役に、武田氏、(株)ウッディファームの坂田雅孝氏、(株)日動工務店の川口省吾氏が参加しての木造談義。同じ木造建築の清和文楽館とふれあいセンターいすみの違いをはじめ、木材建築のメンテナンスや塗装の問題、新しい木材の種類などについて技術的な意見が交わされた。



木造のふれあいセンターいすみを設計した武田光史氏

近所の人も建築家も、一緒になって夏を満喫

～竜蛇平団地夏まつり～

8月23日、アートポリス参加作品である県営竜蛇平団地で、夏まつりが開催された。団地の設計者、元倉眞琴氏も東京から参加。晴れ渡る真夏の一夜、団地住民や近所の人が集まり、音楽演奏会や映画上映会などを楽しんだ。



建築家の元倉眞琴氏も住民とふれあった(写真中央)

Kumamoto Artpolis Project Guide

凡例/番号プロジェクト名
 設計者...主な用途...竣工年月
 住所...行き方...開館時間、休日、入場料など...連絡先



1 熊本市警察署
 藤原一男+太宏設計事務所...警察署...90年11月
 熊本市草葉町5-13...熊本交通センターからバス「白川公園前」下車...内部見学、写真撮影は要許可、バス駐車不可...熊本北警察署警務課096-323-0110



2 県営保田窪第一団地
 山本理顕...共同住宅...91年8月
 熊本市帯山1-26...熊本交通センターからバス「上保田窪」下車...外観のみ見学可、駐車不可、中庭は入れません



3 加久藤トンネル換気所
 小山明+パシフィックコンサルタンツ...機械室...89年8月
 入吉市大畑町、宮崎県えびの市東川北...国道221号加久藤トンネル脇...外観のみ見学可



4 三角港フェリーターミナル
 葉祥榮...旅客待合所...90年2月
 三角町大字三角港...JR三角駅前...0964-53-1255



5 八代市立博物館 未来の森ミュージアム
 伊東直雄...博物館...91年3月
 八代市西松江町12-35...JR八代駅前からバス「法務局・博物館前」下車...9:00~17:00...月休...入場料300円(常設展)...0965-34-5555



6 熊本市花畑パークトイレ
 大家豊...公共トイレ...89年10月
 熊本市花畑町6...熊本交通センター前、花畑公園内...近隣に有料駐車場あり



7 熊本市上江津湖畔トイレ
 日田光...公共トイレ...89年5月
 熊本市水本町1-6...JR熊本駅から市電「八丁馬場」下車



8 熊本市営新地団地A
 早川邦彦...共同住宅...91年5月
 熊本市清水町新地1917-58...熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車...外観のみ見学可、駐車不可



9 熊本市営新地団地B
 緒方理一郎...共同住宅...92年3月
 熊本市清水町新地1917...熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車...外観のみ見学可、駐車不可



10 熊本市営新地団地C
 富永康...共同住宅...93年10月
 熊本市清水町新地1917-58...熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車...外観のみ見学可、駐車不可



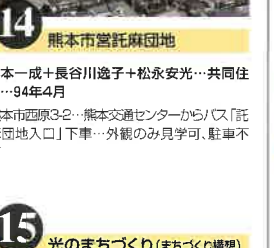
11 熊本市営新地団地D
 西岡弘...共同住宅...95年6月
 熊本市清水町新地1924、1953...熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車...外観のみ見学可、駐車不可



12 熊本市営新地団地E
 上田謙二...共同住宅...95年6月
 熊本市清水町新地1953...熊本交通センターから新地団地行きバス「新地団地」下車...外観のみ見学可、駐車不可



13 県道橋景観整備(基礎調査)
 倉俣史朗+高木富士川計画事務所...完了



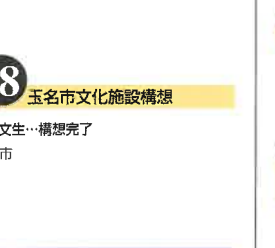
14 熊本市営託麻団地
 坂本一成+長谷川逸子+松永安光...共同住宅...94年4月
 熊本市西原3-2...熊本交通センターからバス「託麻団地入口」下車...外観のみ見学可、駐車不可



15 光のまちづくり(まちづくり構想)
 岩崎敬+瀬口英徳...構想完了
 山鹿市



17 県営帯山A団地(公開コンペ)
 新納至門...共同住宅...92年3月
 熊本市帯山1-23...熊本交通センターからバス「上保田窪」下車...外観のみ見学可、駐車不可



18 玉名市文化施設構想
 豊田文生...構想完了
 玉名市



19 湯の香橋
 岸和郎...遊歩橋...91年3月
 芦北郡芦北町湯浦...JR湯浦駅からバス「湯浦橋」下車...夜間照明19:00~22:00...夜間0966-82-2511



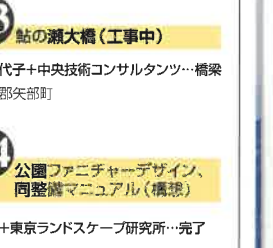
20 清和文楽館
 石井和雄...文楽劇場・展示館...92年3月
 上益城郡清和村大字大平原152...熊本交通センターから馬見原行きバス「清和文楽館」下車...9:00~16:30...月休...入場420円(常設展)1260円(公演時)...定期公演:第2、4日曜...0967-82-3001



21 県立装飾古墳館
 安藤忠雄...歴史資料館...92年4月
 鹿本郡鹿本町岩瀬3085...山鹿産交バスターミナルから車...9:30~17:00...月休...入場410円...0968-36-2151



22 球磨工業高校伝統建築コース加工組立室棟
 象設計集団...工業高校実習棟...91年3月
 入吉市城本町800...JR入吉駅から徒歩12分...見学・写真撮影は要許可...0966-22-4189



23 結の瀬大橋(工事中)
 大野美代子+中央技術コンサルタンツ...橋梁上益城郡矢部町



24 公園ファニチャーデザイン、同整備マニュアル(構想)
 沖健次+東京ランドスケープ研究所...完了



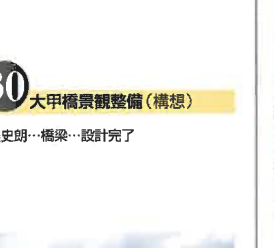
25 松島町合津津末処理場管理棟
 齋藤空...管理棟...92年3月
 天草郡松島町大字合津津4276-387...JR三角駅から松島行きバス「松島バスターミナル」下車徒歩10分...見学・写真撮影要許可...0969-56-3195...8:30~17:15...土日祝休



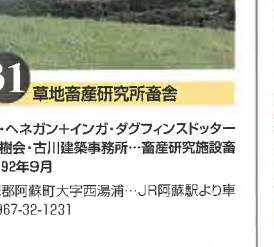
26 石打ダム管理所
 青木茂...ダム管理所...91年2月
 宇土郡三角町中村...JR石打ダム駅から徒歩...外観のみ見学可



29 玉名天望館
 高崎正治...展示・学習コミュニティ室...92年9月
 玉名市大倉高田1144...熊本交通センターから玉名、荒尾行きバス「玉名大橋口」下車...玉名市都市計画課0988-75-1122



30 大甲橋景観整備(構想)
 倉俣史朗...橋梁...設計完了



31 草地畜産研究所畜舎
 トム・ヘネガン+インガ・ダグフィンズドック+桜樹会・古川建築事務所...畜産研究施設畜舎...92年9月
 阿蘇郡阿蘇町大字西湯浦...JR阿蘇駅より車...0967-32-1231



32 再春館レディーズレジデンス
 妹島和世...女子社員寮...91年7月
 熊本市帯山4-323-1...熊本交通センターからバス「保田窪本町」下車...外観のみ見学可...再春館建築所総務課096-384-5555



33 県立美術館分館
 エリアス・トーレス+ホセ・A・M・ラベニャ+大設計...美術館...92年10月
 熊本市千歳町2-18...9:30~18:30(土・日・祭日17:00まで)...熊本市役所から徒歩5分...月休...096-351-8411



34 清前まんが美術館・公民館
 桂英昭...美術館・公民館...92年11月
 球磨郡清前町字上牧原1834-1...くま川鉄道湯前駅下車すぐ...9:00~17:00...入場料300円...0968-43-2050



35 県営竜蛇平団地
 元倉眞琴...共同住宅...94年2月
 熊本市帯山3-1...熊本交通センターからバス「東水前寺」下車...外観のみ見学可、駐車不可



36 つなぎ物産ギャラリー
 北山孝二...物産センター・公園...92年5月
 芦北郡津奈木町岩城1601...JR津奈木駅よりバス「竹中」下車...9:00~18:00...第1水休...0966-78-2000



37 教会の見えるチャペルの鐘屋公園
 梅田正徳+スペースデザイン設計事務所...公園...93年3月
 天草郡河浦町崎津字村上295...本道バスターミナルから牛深行きバス「一町田中央」下車、富岡行きに乗り換え「教会入口」下車...河浦町役場企画調整室0967-6-1111



38 花の温泉館
 ワークショップ...温泉センター・レストハウス...93年11月
 阿蘇郡山田大字田尻68-1...JR宮地駅から車...10:00~21:00...第1・3・5火休...入浴500円...0967-26-2341



39 TOTO AQUAPIT ASO
 木島安史...公共トイレ...92年3月
 阿蘇郡白水村大字中松古坊中3845-19...阿蘇山ロープウェイ阿蘇山西駅前



40 白川橋景観整備
 藤江和子...橋梁...92年11月
 熊本市二本木...JR熊本駅より徒歩



41 杖立橋+Pホール
 新井清一...歩道橋・多目的ホール...96年3月
 阿蘇郡小国町大字下城



42 石打ダム資料館
 入江経一...資料館...93年3月
 宇土郡三角町中村字八久保3829-2...JR石打ダム駅から徒歩...9:00~17:00...月休...0964-54-1191



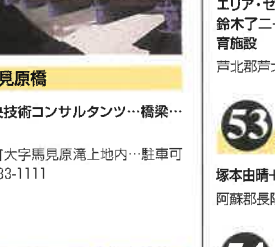
43 天草ビジターセンター・天草展望休憩所
 古谷誠章+中川建築設計事務所...博物館展示施設・休憩所...94年7月
 天草郡松島町永瀬島...熊本交通センターから蓬交バス本道行き「橋合入口」下車すぐ...9:00~17:00...月休...0969-56-3665



44 うしぶか海鮮館
 内藤廣...物品販売・展示・待合室・レストラン・視聴覚室など...97年3月
 牛深市牛深町2286...本道バスセンターから牛深行きバス「牛深」下車...9:00~18:00...第3火休...駐車可...09697-3-3818



45 不知火町文化プラザ(設計中)
 北川原温+伊藤建築事務所...図書館・美術館・温水プール・広場
 宇土郡不知火町...熊本交通センターから松橋町経由三角行きバス「不知火町役場」下車



46 馬見原橋
 青木淳+中央技術コンサルタンツ...橋梁...95年6月
 阿蘇郡蘇峰町大字馬見原浦上地内...駐車可...夜間0967-83-1111



48 熊本市警察署坪井交番
 マニュアル・タルディッツ+加茂紀和子...交番...95年3月
 熊本市坪井町1-1-1



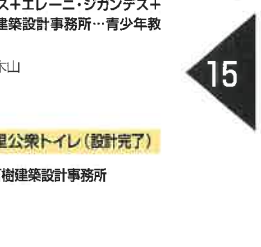
49 武田光史+ロゴス設計人...物産館・視聴覚センター
 八代市東村大字岳...交通センターから水川ダム行きバス「湯川」下車徒歩3分...駐車可



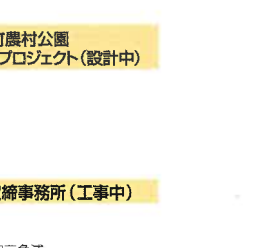
50 有明フェリー長洲港ターミナル
 石田敬明...フェリーターミナル...96年3月
 玉名郡長洲町長洲字下原2166-4...JR長洲駅からバス「長洲港」下車...6:00~20:00...0957-78-3358



51 荒尾警察署長洲交番
 塚本政利+設計機構ワークス...交番...96年3月
 玉名郡長洲町大字長洲下原2006



52 県立芦北青少年の家(工事中)
 エリア・ゼンゲリス+エレニ・シガンデス+鈴木了二+島村建築設計事務所...青少年教育施設
 芦北郡芦北町観木山



53 草千里公共トイレ(設計完了)
 塚本由晴+青藤百樹建築設計事務所
 阿蘇郡長陽村



54 宇土マリナークラブハウス(工事中)
 吉松秀樹
 宇土市



※見学の際は、建物所有者、居住者、および周辺の居住者に迷惑のならないよう十分注意してください。特に大人数での見学の際は事前に連絡を必要とする施設がありますので「アートポリス事務局」までご連絡ください。

くまもとアートポリス・プロジェクトガイド

くまもとアートポリスのこれまでに竣工・完了したプロジェクト、そして現在進行中のプロジェクトを一堂に集めました。竣工プロジェクトには、これら作品を見に行かれる方のために住所などのデータを掲載しました。巻末の地図と併せてご利用ください。